



北山田小だより



横浜市立北山田小学校
校長 滝川 尚美

「経験を通して生きる力を身に付ける」

日差しが明るくなり、1年生が植えたチューリップの球根から緑の葉っぱが伸びてきました。正門で交わされる子どもたちの会話にもクラス替えのことが話題に出るようになりました。今年度の学校生活もいよいよ最後の月を迎えました。

今年度もふれあいの会のご協力もあり、多くの特別授業や企業と連携しての出前授業を行ってきました。また、地域の方々に昔遊びを教わったり、公園の清掃活動などを行ったり、近隣保育園や幼稚園と交流したりしてきました。たくさんの体験と出会いに多くの学びがありました。

子どもたちが「もっと知りたい」と心を動かす何かがあったところから本気の学びが始まります。子どもが自ら課題を立てて解決しようと試行錯誤する学びです。私たちは、日々、子どもの心を動かす授業をどうやって組み立てるか悩みますが、何より効果的なのは本物と出会うこと、自ら体験することです。人と出会い、新しい考え方に触れることは、心を動かす一つのチャンスです。そんな出会いの機会をたくさんいただけた一年間でした。

現在、飼育小屋に小さなビオトープがあります。それを作ったのは3年生の子どもたちです。3年生の心を動かしたのも人との出会いでした。この活動がスタートしたのは7月。「『どくろ池』に自由に行って魚が見たい!」「でも、駐車場側にあるので子どもだけでは行かない!」「困った!どうしたらいい?」と考えたことが始まりでした。その後、「どうやら飼育小屋が使えるそう」となり「飼育小屋に魚を見られる場所を作ろう!」となりました。「どんな生き物が飼えそうかな?」と調べるうちにビオトープというものがあること、近隣にある東京都市大学の構内にそのビオトープがあり、田中章教授の研究室で管理していることをつきとめました。そこで、子どもたちの願いを東京都市大学に告げてみたところ、なんと快くビオトープを見せてもらうことになりました。2度目の訪問時には、生き物と土を分けてもらうことができました。教授と話したり、わいわいとビオトープをのぞき込んだり、大学で大はしゃぎの子どもたちでした。最後には教授にサインまでもらっていました。田中教授と出会ったこと、実物を大学で見せてもらったことは大きな経験でした。学校にできたのは小さなビオトープですが、子どもたちの学びがいっぱい詰まっています。

経験を通じて身に付けた力はその後の人生で何度でも繰り返し発揮することができます。しかも繰り返せば繰り返すほど、その力は強くなっていきます。今回は「学校に生き物と触れ合える場所を作りたい」という目標を明確にした「目標設定力」やその実現のための「問題解決力」、「情報処理能力」、「コミュニケーションスキル」などを発揮したと思います。この経験は、きっと次の学年でも生かされることでしょう。こういった取り組みはどの学年でも行われています。それぞれが身に付けた力をまた次の学年でも発揮できるように支援してまいります。

最後になりましたが、今年度も保護者、地域の皆様には、様々な場面でご理解とご協力をいただきましたこと、心から感謝いたします。

